

真高寺だより

第16号 平成23年7月25日発行
発行所：真高寺（伊澤孝順住職）
住所：市原市飯給1143
電話：0436-96-0058
*発行責任者 根本 貞夫
*編集責任者 木村 孝一



(写真提供：山内憲章氏)



せじきえ 山門施食会に参加を 「各家先祖供養の塔婆を献じましょう」

総代会長 根本 貞夫

今年も魂迎えの季節となりました。あらためて東日本大震災で亡くなられた皆様に心からお悔やみを申し上げます。

この季節、私たちの最大行事はお盆です。そしてお寺では施食会を執り行います。他の宗派では今でも施餓鬼と言っていますが、曹洞宗では人権の立場から数年前より「施食会」と言い直しております。真高寺の場合、毎年8月15日が施食会となります。実は私も勘違いをしていたのですが、この行事は新盆家だけが寺にお参りに来るものだとずっと思っていました。しかしこれは大きな誤りです。中心はあくまでも山門施食会であって、副次的に付け施食会として新盆供養を執り行っているのだそうです。つまり山門施食会こそが主体であって、真高寺の全檀家の先祖供養をしております。

そこで今年から、各檀家の皆さん何人でも、一人でも結構ですので、是非山門施食会にお越し下さい。8月15日9時30分から一時間程です。その際、皆さんのご先祖の為に是非とも塔婆一本を献じて下さい。今年から本来の姿に立ち返って魂送りをしましょう。

道元禅師のおことば

仏法かならず、人をあわれむことあるなり 〈礼拝得體〉

おことばの意味

自分の生命をこの世に誕生させてもらい、生まれてから今日までの生命を育んでくれた宇宙の生命には、目には見えないが、驚くべき力がある。

このありがたい宇宙の生命体に合掌したり礼拝したりすると、宇宙は必ずこれに感じ応えて、その人を守り育てようとしてくれる。純情なる心で「ありがとうございます」と合掌し続いていると、思いがけない素晴らしい縁が周りに起こってくるのである。

東日本大震災に学ぶ

住職 伊澤孝順

3月11日に起きた東日本大震災で多くの人々が亡くなられた事にご冥福と被災された方々にお見舞いを申し上げます。

自然の猛威には、人間の成すべき事が全て空しく思えます。人間の欲によって自然を思い通りに出来ると思っていた事が、悉く打ち砕かれました。やはり自然の中に順応しながら生きる事の大切さが分かりました。この震災を通して、今日一日の命の尊さも実感しました。

我々の生活に便利さを求める過ぎたことが、人間の付き合いも軽薄となり、無縁社会を作ることになりました。お互いが助け合う事の大切さを学び、お盆を迎えるにあたり改めて、震災で亡くなられた方々に追慕と感謝の心を込めてお祈り申し上げます。



今年の新盆家



靈園檀信徒



7月18日(海の記念日)・施食会

東京都墨田区	大室利弘家
山武市大綱白里	工藤ひろみ家
東京都足立区	長谷川勝彦家
市川市柏井町	仲山恭典家
市原市古市場	上田まこと家
市原市桜台	猿渡琢磨家
船橋市前原	上野直美家
東京都江東区	中村次夫家
松戸市牧の原	川井時子家
市原市中高根	川合清剛家

「山門施食会のお知らせ」でお伝えしましたように、今年より檀家並びに靈園檀信徒の施食会に、より多くの方が山門施食会に参集して頂けるようお願いしました。

檀家

8月15日(月)・施食会

市原市国分寺台中央	大沼殷雄家
市原市万田野	仲村文夫家
市原市柿木台	花澤廣吉家
市原市飯給	金巻豊家
市原市五井	小林和人家
市原市平野	桐生登家
市原市上高根	積田誠家
市原市万田野	仲村信義家
市原市石塚	四倉慶一家
市原市米沢	仲村安彦家
市原市養老	丸チ正家
市原市平野	佐久間常壽家

山内あれこれ

千葉県第16教区護持会研修会 開催される

6月20日、古敷谷の長楽寺（住職：林哲徳 師）を会場として、護持会研修会が開催されました。会場が手狭とのことで、各寺5名程度の参加となりました。今年は奈良県の瀧川寺住職の大谷良心老師が特派布教師として来られ、「利他行」についてお話をされました。



「世の中は自分の思い通りにならない。人も自分の思い通りにならない。苦しみを除いて安樂に生きるにはどうしたらよいか、を示すのが仏教」「日本の文化は、物に命が宿る文化。だから勿体ない、の発想になる」「挨拶は極めて大事だ。挨拶の基本は3つ。①お願い(成功したら御礼をします) ②お礼(ありがとうございます) ③お詫び(二度といたしません) 自分の思いをちゃんと伝えること。他の幸せがあつて初めて自分の幸せがある。今は何故に挨拶をしなければいけないかまで、踏み込んで教えてあげることが大事です」などのお話をされました。

なお、人権学習のビデオは「無縁社会から有縁社会へ」というタイトルで、いじめや虐待などを題材にして、家庭は自分を愛してくれる人が居る所。ありのままの自分で居られる所。生きて行くときに大事な事をちゃんと教えてくれる場所。虐待を防ぐには、「子供は授かるもので、神様から預かった宝物」という意識が大事。また「智恵と慈悲」が仏教の柱。自分と他人の命を大切にする。それが慈悲。……講話を聴いた後、帰宅してからインターネットで「サムシング・グレート」と入力して検索してみました。驚くような面白い内容です。是非検索してみて下さい。



山門は大丈夫です

7月6日(水)午前10時に、山門の工事をされた風基建設株の建築士 奥隅俊男氏と宮大工の梅村哲夫氏が来山されました。お二人は先の大震災後に一度来られましたが、今回は本格的に山門が震災の影響を受けなかったかどうかを調査されました。結果は、年月による建物の縮みと、それに伴う歪みが有りましたが、それらの個所を修復され、大丈夫ですということでした。

縁台が立派な部屋に衣替えです

本堂脇に縁台として作った部屋が真新しくなりました。3月26日に、故 仲村ていさんのご遺族より「為智光院泉庵貞薰大姉位」として、本堂脇の部屋の窓アルミサッシ一式を、また同日、故 大岩とみさんのご遺族より「為薰光富容信女」として、本堂脇の部屋の畳22畳分のご寄贈がありました。さらに4月11日、柿木台の前総代 大沼康衛さんより、この部屋の整備費の寄贈がありました。お陰で天井扇まで付いた立派な部屋となりました。





お二人の心根に感謝です

3月31日、前総代役員の小澤平治さんと奥様の満佐子さんより、山門から本堂前石段までの参道を御影石の敷石で整備していただきました。お陰で足元も心配がなくなり、また山門も一層立派に映えて見えます。

花苗をありがとうございます

一昨年から始めましたお釈迦様の誕生をお祝いする灌仏会ですが、まだ歴史も浅いために余り広くは知られていないようです。そんな中、園芸高校で先生をされている四倉弥一さんより、参拝者へのお土産用として、4月3日に約100鉢の花の苗を頂きました。きっと花が仏縁の輪を広げてくれるものと思います。

きちんとお参りが出来ます

水子地蔵さんの前に香炉と花立てができました。東石材さんより寄贈されたものです。お陰で個々の水子地蔵さんにもきちんとお参りが出来ます。



足場が出来て安心です



例年、総代役員の奉仕活動として都合のつく皆さんで、お盆前のこの時期に境内の草刈りを行います。ただ、真高寺は境内が広いばかりでなく、急な傾斜地もあるため、足を滑らしたりして作業は難儀でした。でも今年からは一寸安心です。総代の桐生文雄さんと佐久間作衛さんが、裏山の孟宗竹を伐採した折に、その竹で立派な足場を作ってくれました。

なお今年の草刈りは8月6日(土)です。

花のお寺が夢なんです

お寺の入り口から参道に沿って、沢山の季節の草花が植えられています。6月9日、金巻いちさん、松本和子さん、そして加藤三枝さんの三方が一生懸命に道路脇花壇の手入れをされていました。「あんまりはっきり撮らないで…」と開口一番、実に控えめなコメントをいただきました。



竹垣が見事です

靈園檀家の門脇隆夫さんと遠田繁弘さんのお二人によって、靈園内の水屋のある駐車場に竹垣を作って下さいました。お陰で一段と安全安心になりました。



大きな蜂の巣がありました

枝垂れ桜の脇に古い石灯籠があります。この下にスズメバチが大きな巣を作っていました。参道正面ということもあり、解体して巣は取り払いました。なお、石灯籠は現在の場所では地盤的に問題がありますので、一段下のより地盤の完全な場所に、近く一対とも移転します。

養老渓谷霊園檀信徒の皆様へ

昨今、皆様の中で、他寺で通夜・葬儀を済ませて来たとか、葬儀はしないで、斎場でお骨にしたので納骨のみにしてくれとかの依頼を受けることがあります。そこでお願いですが、今後、皆様方の身内でご不幸がありました時は、必ずお寺の方にご一報をお願いします。

施食会について

靈園関係者は7月18日(海の日)に行いました。
根檀家は例年通り8月15日(月)に行います。
今年は節電のため1時間早めて行います。

施食会次第

- | | |
|---------|--|
| 午前8時30分 | 開会 |
| 9時 | 諷誦文供養 |
| 9時30分 | 法話（駒澤女子大学人文学部准教授・宝林寺住職・千葉公慈師） |
| 10時 | 開式・本尊上供・山門大施食会（全檀家の総供養）
(この終了時点で、一般檀家は塔婆を受け取って帰る) |
| 10時40分頃 | 新盆施食会（新盆の特別供養） |
| 11時30分頃 | 散会 |



先祖供養塔婆の申込み 締切りは7月末です

施食会の主体は山門施食会です。ですから真高寺全檀家のご先祖の供養が中心です。そこで全ての檀家の皆様に、ご先祖供養として各家一本の塔婆をあげて頂きたいと考えております。申し込みが多数となりますので、7月末日を締切りとさせていただきます。なお、申し込みは各総代役員を通じてでも、お寺に直接でも構いません。塔婆代金は1本3千円です。



お世話になりました



四倉民夫様が昨年末ご逝去されました。85歳のご生涯でした。四倉様には、山門解体修理工事に際して、石塚地区から建設工事委員としてご尽力いただきました。少しご不自由な足を気にする様子もなく、遠路を厭わずに幾度となく来山して下さいました。此処に謹んで、善雲院徹山民徳居士のご冥福をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

悼 一途なる誠や赤きほととぎす 傘休

健康の秘訣は毎朝のペヤングです

前総代役員の木村弥さんは、この7月21日で目出度く88歳の米寿を迎えられました。毎日軽トラを運転されて、少し離れた2か所の長芋畑に出掛け、元気に農作業をしています。そこで、「健康の秘訣は何ですか?」とお尋ねすると、働き者の娘さんが即座に「秘訣は2つです」と答えられました。「1つ目は早寝早起きで、夜は9時には寝て、朝は5時には目覚めます。2つ目は、『ペヤング・ソース焼きそば』です。朝起きて直ぐお湯を沸かし、毎日欠かさずにペヤング・ソース焼きそばを自分で作って食べ、5時半頃に朝飯前の畠仕事に出掛けます。朝食は一仕事終えた後で、7時半頃にしっかりと食べています。ペヤングは箱買いして、もう30年以上にもなります」とのことでした。この話、ペヤングに報せてあげたいですね。



本山税の納付をお願いします

例年のことですが、本山税の納付時期となりました。一般家3,000円、院号家3,500円です。直接持参されるか、役員等に依頼するかして下さい。



檀信徒の皆様の思いや考え、そして近況などをお知らせ下さい。手紙や葉書、ファックスなど、何でも結構です。

編 集 後 記

東日本大震災から間もなく5か月が経とうとしております。今でも、もし自分があの津波で身近な家族を皆失って一人となっていたら、今どうしているだろうか? もし自分が住み慣れた土地を離れて他所へ強制移住しなくてはならないとしたら、どうしているだろうか? と思いを重ねて考えることがあります。

今回の災害だけは、とても他所事、他人事とは思えません。このような時だからこそ、宗教の果たす役割は極めて大きなものがあると思います。【喫茶去】:「まー、お茶でも飲んで行きなさいよ」と言うような意味ですが、お寺こそは常にそのようにあって欲しいものです。そして弱者である私たちの愚痴や戯言を楽しく聞いてくれる所であって欲しいものです。

それにしても、何気ない見慣れた日常こそが、実は唯一無二の宝物であることを今回の地震は教えてくれました。

間もなくお盆です。一年ぶりに亡くなった先祖が家に帰ってきます。あらためて心からの感謝の言葉を申したいと思っています。

勿論、今と一緒に生きている家族に対しても…。

何くれと過ぎこし日々や夕暈 傘休

